



軌跡

明治26年から
平成25年までの





つなく地域の底力!

浜松商工会議所
創立120周年

ここから未来へ、
浜松から世界へ

特集

創立120周年記念事業 4
過去110年間の出来事 8
10年間の取り組み 12

CONTENTS

つなく地域の底力 22
10年間の推移等 26
編集後記 委員紹介 27



浜松の大きいなる未来に向けて

2013.11.1 17:00~18:00 マイカホール



会員企業の皆様と今後の浜松について考えるため11月1日に「浜松の大きいなる未来に向けて」をテーマに創立120周年記念シンポジウムを開催。当日は、鈴木浜松市長、基調講演講師の藻谷氏、会頭任期を終えた御室前会頭、同日に新会頭に就任した大須賀新会頭をパネリストに迎え、創立120周年記念誌部会の神谷部会長をコーディネーターとして公開討論を行った。

浜松はご承知のとおり、ものづくりの街です。政令市の中で浜松は第1次産業、第2次産業ともに1位です。しかし第3次産業に従事している人口は最下位の20位です。

漢谷先生のご提言のとおり、雇用の受け皿を作るためにも今後は第3次産業を伸ばしていく事が重要な課題だと思えます。

浜松は工業都市と思われがちですが、農業についても浜松は誇るべき地域です。浜松の農業生産額は新潟とほとんど同じです。当地域は種類だけを見ても150品目の農産物を出荷しています。花、野菜、果物といった施設園芸型の付加価値の高いものが得意です。林業ももちろんです。皆さんは、FSC森林認証というのをご存知でしょうか。FSC森林認証とは「森林が適切に管理されているか」を、第三者機関が全世界統一の基準に沿って審査、認証するもので、違法伐採や保護する価値の高い森林の伐採を防ぐ効果的な仕組みです。ヨーロッパではFSC認証材は高く流通しています。浜松は平成22年に、天竜区及び北区引佐地域の森林のうち、18400haがFSC森林認証材として認められました。

徐々に認証材が広がり、現在市町村別取得面積では、日本第1位となりました。

神谷部会長 製造業、農業、林業は誇れる点が多いですが、サービス業はこれからの大きな課題だというお話でした。

さて、御室前会頭は6年間浜松地域の経済界を引っ張ってこられました。業界界を代表して、浜松の産業の現状認識をお聞かせください。

浜松と海外を利益循環 できる仕組みを

御室前会頭 私は6年間会頭を務めさせていただきました。就任から1年後にリーマンショックが起きました。当時浜松の工業出荷額は3兆円ありましたが、なんと1兆円とんでしまい、2兆円となりました。まさにどうすればいいのかという状態でした。近年、海外に進出する企業が多々あります。その国において得た利潤を自国のマザー工場や研究所に設備投資という形で還元する。こういう循環ができれば理想的だと思っています。しかし、その循環が一巡するまでが大変ですね。まだそうした仕組みが作りきれないというのが浜松の現状だと思えます。

神谷部会長 理想的な循環を作る事はなかなか簡単なことではないかと思いますが、そのあたりは後でお話を聞かせて下さい。続きまして、本日、正式に浜松商工会議所22期会頭に選任され、これから、新リーダーとして、浜松地域の経済界を引っ張っていく大須賀新会頭より、今感じている思いをお聞かせください。

三次産業の育成が 発展の鍵

神谷部会長 浜松は国鉄浜松工場、静岡大学工学部の誘致をきっかけに、明治以降、繊維、楽器、オートバイ、自動車など製造業が地域経済を力強く牽引し、「ものづくりの街」「浜松」を築く原動力となってきました。しかし、リーマンショック以降、世界経済の低迷や中国や韓国をはじめとしたアジア新興国企業の台頭に押され、大量生産、低価格における競争の中で、「ものづくりの街」「浜松」の立ち位置が揺らぎ始めている様に感じます。現状をどのようにお考えになっているのか、そのあたりから伺っていききたいと思います。

藻谷氏 浜松は世界の第一線で戦うことのできる数少ない町のひとつです。国際競争に真つ正面から挑み、戦っている地域の皆様に対して提言させていただくのであれば、多くの雇用を増やす取り組みをすることでしょう。生産を海外にシフトしている中、雇用の受け皿として第三次産業を育てていく事が地域の課題だと思います。例えば浜松に出張でやって来たビジネスマンはご当地ならではの美味しいものを食べたい。そうした需要にも浜松は応えきれていないように思います。つまりしっかりとお金を落としてもらえおもてなしの街

大須賀新会頭 22期会頭として重責を担うこととなりましたが、夢を語る前に、まずは御室前会頭がやられてきたことをしっかりと引き継いでいくべきだと思っています。中でも重要視しているのは防潮堤の整備に關してです。一条工務店グループから300億の寄附をいただき、当所でも50億円の寄附を募ろうと決めました。当所には会員企業が1万4000社弱あります。その方々に一日100円ずつ出してもらおうというのはいかがでしょうか。

良いものを高く売る 戦略的な発想を

神谷部会長 いよいよ本題、「浜松の未来について」に迫っていききたいと思います。新産業創出と言われて久しいですが、浜松の特性を活かして、将来成長していくだろう、あるいは成長して欲しいと思われる産業について、皆さんにお聞きます。

藻谷氏 大量生産、低価格から脱却していくことが賢明です。しかし簡単に値段は上げられないよと経営者の方々はおっしゃいます。もちろん商品価値を上げれば売上げが上がるというのは世の中の常識です。吉野屋しかり、マクドナルドしかりです。しかしできる方法がいくつかあります。世界中の半導体が安くなっている中で、なぜインテルだけは強いのかお話しします。

に育てていく事が課題だということです。またエネルギーを確保しておくことも重要です。再生エネルギーの木質バイオマスについてお話しすると、オーストリアは木質バイオマスを用いた技術に関して突出した技術を誇っています。日本よりも一人当たりの国民所得が高いオーストリアが国全体の1割以上は木を燃やしてエネルギーを得ている。水力と合わせると3割ぐらいになります。その理由はこの10年で木造建築が急速に増えているからです。副産物として木屑が大量に発生し、それを燃やしてエネルギーを得ている。浜松でも地元産の木で家を建てるのが良いと思います。木を豊富に持つ浜松なら木材を効率良く使って再生エネルギーを活用していくことができるのではないのでしょうか。

鈴木市長 政令指定都市は全国に20都市ありますが、県庁所在地でもなく、なおかつ大都市のベッドタウンとして発展したわけでもない市は2つしかありません。ひとつは浜松市、もうひとつは北九州市です。しかし北九州市は官によって作られた市。となると浜松は民間の力で自力で発展してきた唯一の市だといえるでしょう。これは誇るべきことだと思います。現在、道州制導入について検討されていますが、浜松はどんな仕組みになっても大丈夫です。浜松の潜在力に自信を持ちたいと思います。



浜松商工会議所 新会頭
大須賀 正孝
1971年12月にトラック1台で浜松協同運送(株)ハマキョウレックス)を創業。「日々決算」など独自の経営で2003年に東証1部上場を果たす。静岡県トラック協会会長など歴任。2010年11月に浜松商工会議所副会頭・2013年11月1日に会頭に就任。



浜松商工会議所 前会頭
御室 健一郎
1996年、浜松信用金庫の理事長に就任。2004年11月に浜松商工会議所副会頭・2007年11月に会頭に選任。リーマンショックなど激動の経済情勢を乗り越え2013年11月1日まで就任。浜松市行政改革推進審議会会長などその他多数の公職等を歴任。



浜松市長
鈴木 康友
慶應義塾大学法学部卒業後、松下政経塾に第1期生として入塾。卒業後は企画会社経営等を経て、静岡県第8区総支部長。第42回衆議院選挙において静岡県第8区より初当選。第43回衆議院選挙は東海比例区より当選。当選2回、現在、浜松市長(2期目)。



記念式典 講演会講師
藻谷 浩介
東京大学法学部卒業、米国NY市コロンビア大学経営大学院(ビジネススクール)卒業。現在日本総合研究所調査部 主席研究員および日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問。まちづくり、観光振興、産業振興、人口成熟問題を専門分野として講演活動を行う。



創立120周年記念 部会長
神谷 竹彦
株式会社サカエの代表取締役会長。浜松商工会議所では第5期青年部会長・金属機械商業部会長などを歴任。本年度、創立120周年記念誌部会長として記念誌編纂に取り組んだ。その他、浜松機械工具商協同組合の理事長を務める等主に製造業の縁の下の支えとして尽力。

半導体の世界一は中国でも韓国でもなくアメリカです。それは半導体を何十倍も高い値段で売っているインテルがあるからです。ブランド力を獲得するきっかけとなったのはあの有名な「インテル入ってる」のキャンペーンです。性能がいいのに加えて、何よりもインテルという名前を最終消費者が認知しているという点です。B to C（企業対消費者間取引）のパソコンメーカーよりもB to B（企業間取引）のインテルの



方がブランド力が強くなつてしまっている。どのメーカーのパソコンでもいいけれど、インテルが入っていないと困る。これをインテルブランドインゲ戦略といいます。同じような事例として堺市にあるシマノを挙げてみましょう。自転車パーツメーカーとしては世界最大の企業です。自転車マニアは、「シマノのこれを使わないといけない」「この部品はシマノに限る」と口にします。自転車メーカーよりもパーツメーカーの方がオモテに立っているという状況になっています。私の個人的な考えですが、車もいずれそうなると思っ

底力ある地域資源をプロモーションし集客へ

神谷部会長 続きまして、行政としては環境整備や土俵を作ることが主なお仕事になると思いますが、浜松市長さんが考える浜松の未来を担う成長産業についてお話しいただけますか。

鈴木市長 第3次産業は雇用の裾野が広いが、そこが浜松には欠けているというお話

す。映画化された「武士の家計簿」でも知られる磯田先生が、元城町の東照宮は「日本史上最強の霊地」であると新聞のコラムで紹介してください、東照宮に全国各地から経営者の方がお参りに来られるようになってきました。そういう発想を行政にも取り入れていきたいと思っています。

賃金増からデフレ脱却の流れへ

神谷部会長 産業界を代表して今度は大須賀新会頭からお話いただけますか。

大須賀新会頭 アベノミクスで給与アップに期待が寄せられていますが、いくら会社が儲かっても、人材不足にならないければ賃



が先ほど出ましたので、いつも話す内容とは角度を変えて、その視点でお話したいと思います。今、市では出世大名家康くんのキャンペーンに力を注いでいます。くまモンは昨年300億円をグッズだけで売り上げています。そして熊本県への経済波及効果は1000億円と言われています。凄いですよね。たかがゆるキャラされどゆるキャラです。しかもくまモンの広告費はおそらく数百万円、最大でも1000万円でしょう。1000万円の投資で1000億円ですよ。

浜松には観光資源が数多くあります。切り口を変えるだけで集客効果を発揮したのが「湖北五山」。奥山方広寺、龍潭寺、初

金は上がらないと思います。ポータスは上がるかもしれませんが、人がだぶついている。絶対的に基本給は上がらない。しかし、ようやく業種によっては人が足りなくなってきました。建設業は少し人件費が上がってきていますね。私のところのような賃金の安い物流業から建設業の方に流れている。そういう循環があると、色々な面でデフレが解消されていくと思います。

神谷部会長 では御室前会頭、バンカー（銀行家）としての立場から産業界を見られる観点でお話ください。

御室前会頭 浜松には規模は小さいけれども、きらりと光る技術を持った会社がたくさんあります。こうした企業を金融機関や商工会議所などでサポートするかが大事だと思います。実際、当所の経営指導員たちがコンサルティングを行っています。そうしたスキルをもっと高め、大いに活用していただくことが大事だと思います。おそらくスズキ（株）さんのような巨大企業はもうこの地域には出ないでしょう。きらりと光る技術を持った中小企業が数多く出て、その集積で地域を構築していくのが理想的です。

人材育成が発展の鍵

神谷部会長 最後に、次の10年間を見据え

たメッセージをお願いします。
鈴木市長 2つポイントがあると思います。1つは今の行政の境をどう乗り越えていくかです。思い起こせば12市町村の合併はすごかったですね。今後はさらに、お互いの資源を活かしていける広域連携はとても重要になってくると思います。三遠南信地域の人口は220万人、工業出荷額は全国で第10位です。この地域は潜在能力が高い。行政の境を越えて連携し、共に発展していきたいと思っています。

そして2つ目は将来を担える人材の育成です。子どもたちの教育に関して、静岡大学とダヴィンチキッズという取り組みを行っています。また浜松ソフト産業協会と一緒に取り組んでいるITキッズプロジェクトも応募がたくさんきています。義務教育ではできない子どもたちの才能を伸ばす取り組みも積極的にやっていきたいと思っています。
神谷部会長 私もダヴィンチキッズは特徴ある浜松をつくるためのパワーになると期待しています。

藻谷氏 平成7年までは日本でも増えていた現役人口が、この先1年から3年ぐらいで中国、韓国、台湾で減り始めます。アジアの新興国において日本と同じ様に現役人口が減り始めれば、状況が大きく変わってくると思います。現役人口の減少を経験をしている日本にとっては有利です。

山宝林寺、大福寺、摩訶耶寺といった全国的には無名だったお寺に各地から人が来るようになりまし。浜名湖の北に位置していたから単純にくっついて「湖北五山」とネーミングをしただけです。また浜名湖はマリンスポーツのメッカですし、天竜川水系はアウトドアのメッカです。たとえば船明はボートの聖地、気多川はカヌーの聖地と称するにふさわしいロケーションです。その他、トレッキング、サイクリング、キャンプと遊びの宝庫です。このレジャー資源をうまく売り出していけば、もっと人が集められると思います。これからも製造業だけで雇用を拡大していくとは思っていません。雇用を吸収できるのは3次産業です。みんなので知恵を出し合っていきたいと思っています。

浜松城より有名なお城は数多くあります。ですから、シティプロモーションとして、ハードとしての城ではなく歴史を売るのが得策だと考えています。浜松城は徳川家康公が天下を獲る過程で重要な時期を過ごした場所であり、また江戸時代には代々の城主が幕府へ戻って皆出世したことから縁起の良いお城として「出世城」と呼ばれています。このストーリーを活用して北野天満宮が受験生の聖地なら、浜松城はビジネスマンの聖地にしたいと考えています。

そうした私の考えに添えてくださったのが静岡文化芸術大学准教授の磯田道史先生です。
神谷部会長 ありがとうございます。浜松の大きな未来についてお話ししていただきました。皆様いかがでしたでしょうか。さて、経済団体は数多くありますが、商工会議所の特徴は大中小のいろんな企業が会員になっている点だと思います。そして地域活動をしているというのも会議所の大きな特徴です。石垣というのは大きな石だけで成り立っているのではありません。石垣の間を小さな石である中小零細企業が埋めてこそ、はじめて堅牢な石垣になるのです。今後より一層活発な地域活動をお願

いいたします。



総合経済団体としての120年の軌跡

浜松商工会議所は、明治26年4月7日、地元先覚者の提唱により、浜松商業会議所として創設されました。明治維新後、我が国の経済社会が資本主義制度に移行していく過程と軌を一にしており、時代の要請に基づいたものといえるでしょう。創設以来120年間、特定の業種や産業に限定されず、また企業の大小を問わず、広く商工業一般を通じた地域の総合経済団体として普遍的かつ公平な活動を可能にする基盤となっています。明治、大正、昭和、平成と激動する時代の中で、常に地域経済の発展、振興のために尽力してきた浜松商工会議所は、今後も幅広い分野で地域に根ざした諸事業を積極的に展開していきます。

明治26年【1893】 ▼ ▼ ▼ 大正 ▼ ▼ ▼ 昭和 ▼ ▼ ▼ 平成25年【2013】

浜松商工会議所の出来事

明治26年（1893）

浜松商業会議所が誕生

経済団体設立の動きが全国的に広まる中、浜松でも気賀敬太郎らが発起人となって浜松商業会議所設立の機運が高まった。明治26年4月7日、全国で33番目に浜松商業会議所が誕生。初代会頭には後の浜松町長でもある鶴見信平氏、副会頭には中村忠七氏が就任。当時の事務所は鍛冶町の東、現在のみずほ銀行の南側にあった浜松信用銀行の建物を間借りし、東は天竜川、西は浜名湖周辺に至る地域一帯の商工業の発展を目指した。なお、設立当初の会員はわずか30人だった。

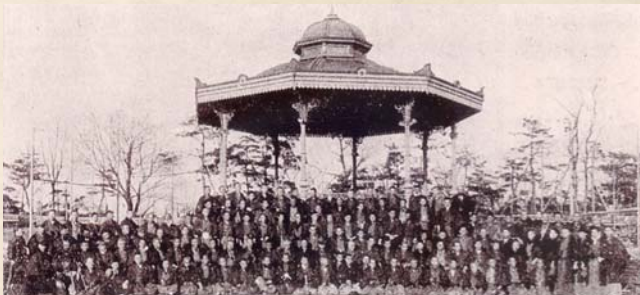


浜松商業会議所設立(明治26年)

明治34年（1901）

浜松物産陳列館開設

明治34年、地元物産を陳列して宣伝するとともに、商工業者の啓発のため、当所の建言によって浜松物産陳列館が開設された。陳列館は洋風の1階建てで、陳列室には特産品や工業製品、農産物が展示された。この博覧会スタイルが大変珍しがられ、市外からも多くの人が訪れ話題となった。



建設再開の要請のため陳情団150人が上京(日比谷公園にて撮影)

大正元年（1912）

鉄道院浜松工場(現JR東海浜松工場)の誘致運動

当時、鉄道院から東海道線に使用する機関車や客車等の修理点検工場を浜松周辺に建設するとの検討がなされた。地元資本の産業しか持たなかった浜松にとって、官営の大工場建設は一大朗報だった。しかし、建設計画中止の急報がもたらされたため町民が決起して桂首相への陳情のため上京。持ち前のやらまいか精神を發揮して復活運動を展開した。当所の鶴見信平氏や中村忠七氏も陳情団代表の一員として活躍。その努力が実を結び、大正元年11月に鉄道院浜松工場が開設された。これによって、金属機械工業の発展に大きな影響を与え、軽工業中心であった浜松がものづくりの町として羽ばたく基礎となった。



創立当時 鉄道院浜松工場

大正7年（1918）

浜松で米騒動起こる

商工業の発展に伴い農業人口が激減したため米の生産が追いつかず、米価が著しく値上がりし、全国的に米騒動が勃発した。大正7年8月、富山県での米騒動が浜松に波及し、2千人余りの群衆が浜松市内をゲリラ的に横行して米穀商や富豪の家を次々に襲い、浜松は無法状態となった。沈静後、当所は被害を受けた米穀商の所得減額を名古屋税務監督局長に稟請した。

昭和3年（1928）

浜松商工会議所に改称

昭和2年4月、商業会議所を名実ともに商工業全般を代表する地域総合経済団体として組織し、その機能を整備・強化するために「商工会議所法」が公布された。当所は同法に基づき、浜松市内を活動区域として存続することを決定し、昭和3年1月から「浜松商工会議所」と改称した。



大正時代から昭和初期にかけての商工会議所(田町)

浜松の歴史

明治元年（1868）

浜松城は新政府に引き渡され、翌明治2年には徳川家達が初代静岡藩知事に任命された。明治4年、廃藩置県が実施され、封建制度は名実ともに消滅。浜松は静岡県に入り、現在の館山寺付近に堀江県が置かれたが、同年堀江県は廃止され、遠州一円を管理する浜松県が設置された。しかし、明治9年、県の分合が行われ浜松県は廃止となり、遠江国は静岡県に合併。遠州地方の政治の中心地だった浜松は、県都の地位を失うことになる。

明治44年（1911）

浜松市誕生

当時、人口36782人、町数40町の小さな市だった。市制施行当日は利町の五社公園で盛大に祝賀式典が行われた。



明治44年 浜松市役所

昭和16年（1941）

太平洋戦争開戦

航空基地があり軍需工場が集中していた浜松は攻撃目標となり、戦争中27回もの空襲や艦砲射撃を受けた。焼失、倒壊した家屋は3万戸余り、死傷者はおよそ5千人にもなった。昭和20年6月18日未明の浜松大空襲ではB29約100機の大編隊が全市を爆撃、実に65000発という莫大な数の焼夷弾によって焼き尽くされた。



- 明治33年 日本楽器がピアノの製造を始める
- 明治42年 浜松～中ノ町間、浜松～鹿島間に軽便鉄道開通
- 明治44年 浜松に市制が施行され、浜松市となる
- 大正元年 鉄道院浜松工場が業務を開始
- 大正3年 元城～金指間に軽便鉄道開通
- 大正7年 浜松自動車が(浜松～二俣間)営業開始
- 大正15年 高柳健次郎がテレビジョンの実験に成功
- 昭和6年 上水道通水開始
- 全国産業博覧会開催
- 昭和14年 浜松保健所が開所
- 昭和19年 東南海地震があり被害を受ける
- 昭和20年 浜松大空襲で市街地の大半を焼失する
- 昭和21年 本田宗一郎がポンポン第1号を製作
- 昭和22年 戦災復興都市計画事業が始まる

浜松商工会議所の出来事

昭和10年 (1935)

浜松商工会議所会館 竣工
(伝馬町48番地へ移転)

昭和18年 (1943)

静岡県商工経済会浜松支部

戦時体制の下、1府県1商工経済会となり、当所も解散。静岡県商工経済会浜松支部の名称で商工活動を続けた。

昭和21年 (1946)

社団法人浜松商工会議所 発会式挙行政

昭和23年 (1948)

復興浜松商工祭開催

駅前や広小路には鬧市と呼ばれた青空市場が並んでいたが、昭和22年になると少しずつ復興の木槌が響き始めた。当所は浜松市等の協力を得て市民のため「復興浜松商工祭」を開催。福引付全市一斉大売出しや商人野球大会、市内循環マラソン大会、芸能行事等を繰り広げ、市民の顔に活気を甦らせた。

昭和27年 (1952)

浜松商工会館落成

昭和25年6月に勃発した朝鮮戦争の特需景気により、浜松は世にいうガチャワ時代が到来。浜松商工会館や浜松市役所新庁舎が落成したのもこの年だった。

昭和29年 (1954)

特別認可法人浜松商工会議所発足

昭和28年8月新しく商工会議所法が施行され、当所は昭和29年2月27日旧法下で最後の会員総会を開催。同年3月15日、通商産業大臣の認可を得て4月1日新制浜松商工会議所が活動を開始し現在に至る。

昭和44年 (1969)

浜松商工会議所会館を新築

浜松駅周辺整備計画協議会発足

明治22年の東海道本線開通以来、浜松は鉄道によって南北に分断されていた。昭和37年頃から東海道線を高架化する運動が盛り上がり昭和47年に都市計画事業として高架化が決定された。高架工事と並行して、浜松駅周辺整備計画の一環として、均衡のとれた南北の街づくりが推進。当所は2次にわたって整備計画を浜松駅周辺整備計画協議会に提言。また浜松経済クラブもアンケート調査を報告し、浜松の顔づくりに乗り出した。

昭和50年 (1975)

会員数5000事業所達成

昭和54年 「商業近代化実施計画浜松地域部会」発足
昭和55年 「商業近代化実施計画」発表
昭和57年 「商調協駅周辺大型店出店計画」審議
昭和58年 「浜松商業振興対策協議会」設置

昭和40年代は大型店の進出旋風が吹き荒れた時代だった。昭和44年はニチイと長崎屋鍛冶町店、昭和48年はユニー泉町店、昭和49年以降は丸井浜松店が開店したのを皮切りに、昭和57年までに第1種大規模小売店舗が12店舗開設され、第2種に至っては64店舗が開設された。さらに浜

松ショッピングプラザ、メイ・ワン、遠鉄百貨店の進出と松菱百貨店の増床計画が発表され、地元の浜松商店界連盟と浜松市商店会団体連絡協議会は出店反対の決議を表明。抗議行動を起こした。当所は双方の間に入って調停し、解決に向かったのは昭和58年になってからだった。



昭和54年浜松駅北口



昭和50年頃の鍛冶町通り



利町、田町、再び利町、伝馬町と移転を重ね昭和44年、会館を新築



昭和25年(左)浜松商工会議所、右)浜松商工会館



昭和10年12月8日、盛大に落成式を開催。新会議所の一風変わったデザインは注目を集めた。

昭和24年 国民金融公庫浜松支所誘致
昭和24年 浜松中小企業相談所開設
昭和24年 「遠州経済懇友会」設立
(現浜松経済クラブ)
昭和26年 浜松青年会議所設立

平成13年 (2001)

三遠南信バイタライゼーション浜松支部設立

静岡県遠州地域、長野県南信地域及び愛知県東三河地域(三遠南信地域)における輸送機械、産業機械、光学機器等の産業集積のポテンシャルを活かし、国際的な市場競争力の確保するために「三遠南信バイタライゼーション協議会」を発足。当所は、その浜松支部として活動した。同協議会では、地域間連携を推進するとともに、大学等教育機関、公的研究機関や企業間の連携を推進した。

平成15年 (2003)

「女性会」発足

創立110周年記念事業

1層2段式の立体駐車場(ソーラー発電施設・ハイブリッド発電施設)が竣工
浜名湖花博 浜松産業館「E-S-R-A」起工式



創立100周年のメイン事業である新会館の上棟式を東伊場の建設現場で開催(出席者120名)



念の付津波 記の取石 鉄骨の取り分け会頭

昭和62年 天竜浜名湖鉄道開業
昭和63年 国際コンベンションシティの指定を受ける
平成2年 ボーランド・ワルシャワ市と音楽文化友好交流協定を締結
平成3年 第1回浜松国際ピアノコンクール開催
平成4年 テレトピア構想のモデル都市指定を受ける
平成5年 浜松地域テクノポリス都田土地区画整理事業が完工
平成6年 地方拠点都市地域として県西部22市町村が指定を受ける
アクトシティ浜松が完成
平成8年 三遠南信地域交流ネットワーク会議設立
フルーツパークが開園
米・ロチェスター市と音楽文化友好交流協定を締結
平成9年 地域情報センター開所
平成11年 航空自衛隊浜松広報館開館
平成12年 静岡文化芸術大学が開学

昭和25年 浜松子ども博覧会、現在の浜松城公園で開催
昭和27年 市役所が利町から元城町(現在地)へ移転
昭和31年 佐久間ダム完成、貯水開始
昭和33年 浜松城の天守閣が再建される
秋葉ダム完成
昭和39年 東海道新幹線が開通
昭和41年 下水道通水開始
昭和42年 三方原用水通水開始
昭和44年 東名高速道路と浜松バイパスが開通
昭和45年 フラワーパークが開園
昭和49年 国立浜松医科大学が開学
昭和54年 東海道本線の高架化工事が完成
昭和57年 人口50万人を達成
昭和59年 浜松駅北口広場が完成
昭和60年 遠州鉄道の高架化工事(新浜松~助信間)が完成



昭和36年頃の浜松駅



浜松産業展示会にて市制50周年記念イベント



昭和36年頃の浜松駅前



昭和32年 国民体育大会



昭和35年 浜松駅ホーム こだま停車



昭和25年 浜松子ども博覧会



昭和34年 浜松テレビジョン開局記念パレード

浜松の歴史

日本経済は、長期化するデフレの中、米国・中国を中心とする輸出の堅調と自動車やアテネ五輪特需等によるデジタル家電販売の好調を背景に、年の前半は景気回復基調で推移したが、後半には原油や素材価格の高騰、円高、世界経済の減速により中小企業を中心に経済的負担を受け

た。日本列島では相次ぐ台風の直撃や新潟県中越地震、海外ではスマトラ沖地震と大津波の発生という未曾有の災害に見舞われた年となり、災害の恐ろしさ、地域経済への影響を見せ付けられ、当地域における東海大地震への早急な備えの必要性を実感させられることとなった。

4月8日、10月11日の187日間

花・緑・水新たな暮らしの創造をテーマに「浜名湖花博」開催

浜松商工会議所パビリオン「浜松産業館E〜RA」



単独出展した浜松産業館「E〜RA館」外観

地域産業の活性化を目的とした浜松商工会議所が単独出展した。浜松地域の映像と音も、大人にもわかりやすい展示を行った。

Column
浜松商工会議所のホームページ「デジタルニューイニング」は平成9年10月にオープン。平成16年までの7年間で6800ページを超える情報量となったため利便性の向上・情報サイト機能の充実を図るため変更された。

- 4月 「産学連携F/S支援事業」スタート
- 中小企業支援センターに経営革新評議員を配置
- 5月 都心再生戦略会議が発足
- 8月 JAPANブランド「遠州難天然とらふぐブランド化推進委員会」発足
- 10月 浜松商工会議所HPリニューアル
- 「中国寧波国際服装博覧会」に派遣
- 2月 個人情報漏洩賠償責任保険制度スタート
- 浜松市政令指定都市推進市民協議会設立
- 3月 「宇宙航空技術活用研究会」発足
- 「プラタナス・ビジネスローン」創設
- 「浜松医工連携研究会」発足



宇宙航空技術活用研究会発足式



浜松医工連携研究会発足式

要望内容

- PFI導入事業の地元業者発注方要望
- ブラジル領事館設置要望
- 静岡空港の早期整備方要望
- 環境税導入反対要望
- 浜名湖ガーデンパーク整備方要望
- 市営新川中央駐車場跡地有効活用方要望
- 外形標準課税導入反対・事業所税撤廃方要望
- 新浜名湖大橋建設促進要望
- 大店立地法指針見直し方要望



世界的な情報化関連分野の在庫調整等により、輸出・生産を中心に弱い動きではあるが、景気は踊り場の状況にあり、好調な業績を背景とする企業の設備投資拡大に支えられ、ようやくデフレ脱却まで今一步のところまで来た。しかし、地方経済は長期にわたるデフレの影響にて地域・

業種あるいは個別企業により二極化が依然として続いており景気回復の実感はなかった。また、中長期的には、少子高齢化と人口減少、グローバル化と国際競争の激化、エネルギー・環境規制の高まりに加え、金融面の量的緩和規制の解除等、地域経済を取り巻く環境が大きく変化した。

青年部「創立20周年記念式典」

青年部「創立20周年記念式典」

アクトシティ浜松中ホールにて、「以心伝心、心と心で伝える20周年」をスローガンとして記念式典、記念講演会（ワタミ(株) 渡邊美樹氏）、記念祝賀会の3部構成で盛大に開催した。



青年部創立20周年記念式典

要望内容

- ブラジル領事館・ブラジルカイシャ銀行設置方要望
- まちづくり推進の新たな枠組み構築方要望
- 適格退職年金から特定退職金共済移管要望
- 三遠南信自動車早期開通要望
- ひかり号停車本数増加方要望
- 浜松市道路交通問題方要望
- 政府系金融機関見直し方要望
- 政令指定都市実現方要望

Column

青年部、女性会による「新浜松市」誕生記念イベントを実施

青年部では音楽で新しい浜松を全国に発信するため、「新市イメージソング」を募集。また女性会では、質の向上・普及と、新たな地域産品の開発を促し、豊かな地域づくりを推進することを目的として、「地産地消のハッピー広場」を開催した。

新浜松市、誕生

7月1日、天竜川・浜名湖地域の12市町村が合併し、新「浜松市」が誕生。人口およそ80万、面積1511.17平方キロメートルという、全国で2番目に面積が広い市となった。



浜松市、浜北市、天竜市、舞阪町、雄踏町、細江町、引佐町、三ヶ日町、春野町、佐久間町、水窪町、龍山村 合併協定調印式。

【新「浜松市」の市章】

生命の源「水」と「緑」をキーワードに新しい浜松市の大切な環境である北部の豊かな森林と浜名湖・遠州灘の美しい海をモチーフにデザイン。



浜松の歴史

浜名湖花博 開幕



しずおか国際園芸博覧会「パンフィックフローラ2004」通称「浜名湖花博」が、4月8日に開幕した。名誉総裁は秋篠宮文仁親王。花・緑・水～新たな暮らしの創造～をテーマに浜名湖ガーデンパークを会場として開催された。来場者数は約544万人。



都心ゲートパーク アップオン



【浜松シティマラソン】

第1回浜松シティマラソンでは、浜松市四ツ池公園陸上競技場発着で、ハーフ、10km、5km、3kmの4種類のコースを設定。ゲストランナーとして増田明美さんを迎え、5050人の参加者が浜松を駆け抜けた。

- 4月 都心ゲートパーク「アップオン」開業
- 8月 イオン浜松志都呂店SCオープン
- 12月 天竜川・浜名湖地域合併協議会調印式
- 2月 第1回浜松シティマラソン開催

- 4月 浜松市文化振興財団発足
- 6月 国道474号線三遠南信自動車道起工式
- 浜名湖ガーデンパーク開園
- 7月 「新浜松市」誕生・12市町村合併記念式典
- 8月 「浜松市行財政改革推進審議会」が設置
- 3月 浜松交響楽団創立30周年記念式典

企業の設備投資の拡大や雇用環境の改善が進み、経済成長を続ける中国などアジア諸国向け輸出の好調により、堅調に回復し11月には「いざなぎ景気(57ヶ月)」を超えて、戦後最長を記録した。着実な景気回復を背景に、日銀では7月にゼロ金利政策を5年4ヶ月ぶりに解除、さらに2月には政策金利の引き上げに踏み切る等デフレ脱却にむけ新しい局面

に入った。
9月には安倍新政権が誕生し新たな国づくりがスタートしたが、地域経済は長期にわたるデフレの影響、原油、素材価格の高止まりに加え、米国の先行きや金利引き上げへの懸念、定率減税の廃止や年金・保険料の負担増による個人消費への影響もあり、景気回復を実感できる状況ではなかった。

知的・産業クラスターフォーラム2006開催

産学官連携の成果と光産業の未来を展望することを目的として、知的・産業クラスターフォーラム2006が、8月28日、29日に開催された。全国から関係者約1000人が参加した。

青年部「日本YEG大賞」グランプリ受賞

日本商工会議所青年部では、地域活性化やビジネス活性化に役立つ優れた事業を表彰しており、浜松商工会議所青年部の政策提言「将来を担う子どもたちにとって豊かな郷土「浜松」の創造」と親身体験型学習事業「Hearts Hands Kidsはままつ2006」が組織支援部門でグランプリに輝いた。

ブラジル銀行浜松事務所開設

- 要望の成果**
- 5月 中小事業所向け「耐震相談」開始
 - 6月 マスターズ21「タイ・ベトナム産業視察会」開催
 - 8月 知的・産業クラスターフォーラム2006開催
 - 2月 青年部「第6回日本YEG大賞」組織支援部門でグランプリ受賞
 - 都心再生シンポジウム開催
 - 3月 女性会5周年記念イベントを開催
 - 「外国人労働者雇用ガイドライン」策定
 - 「新会員の集い」開催



YEG大賞のプレゼン風景



知的・産業クラスターフォーラム2006

Column 東海地震に備える！工場・店舗等、定例耐震相談窓口を設置

東海地震の切迫が危惧される中、社屋や工場、店舗等の倒壊や生産設備等の破損による生産の停滞、中断が事業継続の深刻な問題となった。こうした現状を踏まえ、浜松商工会議所では、被災のダメージを最小限にとどめ、早期事業再開の一助とすることを目的に、浜松建築設計監理協同組合の協力を得て、会員事業の工場や店舗の耐震相談窓口を設置した。



要望内容

- 新幹線ひかり号増停車本数増加要望
- 三遠南信自動車早期開通要望
- 特定退職金共済制度法の整備方要望
- 幹線道路網整備促進要望

米国のサブプライムローン問題に起因した株価下落や急激な円高、米国内バブル崩壊を動機とした原油価格の高騰、建築基準法改正による建築着工遅延問題等が实体经济に大きく

影響し、特に、原油・原材料価格の高騰は価格転嫁が困難な中小企業の採算悪化や個人消費の減退を招き景気の先行き不透明感が増した。

新幹線ひかり号増停車8本増加実現

ひかり号増停車に関する要望活動は、発展し続けている浜松市において極めて重要な課題。春のダイヤ改正において下り3本、上り5本の増停車が決定した。



新幹線ひかり号増停車8本増加実現

Column 浜松市中心市街地活性化協議会設立

まちづくり三法の改正により、会議所・行政・中心部商店街関係者等が一丸となって中心市街地の活性化に取組むための浜松市中心市街地活性化協議会を立ち上げた。同協議会は当所と財浜松まちづくり公社等が共同で設立。認定計画の立案と実施に関し、市町に対して意見を述べていくこととなった。



創業都市構想の実施にあたって、(財)テクノポリス推進機構や浜松商工会議所、地域の大学等と連携した推進体制や産業支援の具体的な仕組みを「浜松モデル」として構築するとともに、これらを実践する拠点として「はままつ産業創造センター」を浜松商工会議所8階に開設した。

政令指定都市「浜松市」誕生

平成19年4月1日、浜松市は政令指定都市に移行した。区制の導入をはじめ、国道・県道の管理、児童相談所の設置など県から多くの事務権限を引き継ぐなど、市制移行以降、最大の変化であり、歴史に残る日となった。

はままつ産業創造センター開設

創業都市構想の実施にあたって、(財)テクノポリス推進機構や浜松商工会議所、地域の大学等と連携した推進体制や産業支援の具体的な仕組みを「浜松モデル」として構築するとともに、これらを実践する拠点として「はままつ産業創造センター」を浜松商工会議所8階に開設した。

浜松の歴史

JSTサテライト静岡開設

「JSTサテライト」とは、地域の独創的な研究成果を活用した新規事業の創出、技術革新による経済活性化を目指して、地域の産学官交流や独創的研究成果の育成を推進する、科学技術振興機構の活動拠点。平成18年10月に静岡大学の構内に設置された。



- 5月 清水港利用促進協会50周年式典
- 10月 浜松市政令指定都市移行が決定
- 浜松インキュベーションキューブ開設
- JSTサテライト静岡開設

HI-Cubeは、ベンチャー企業の創出や中小企業の新事業展開を促進し、地域産業の振興に資する事を目的としたインキュベーション施設。



IT weekを開催



全国商工会議所観光振興大会in浜松

- | | |
|-----|---------------------------------|
| 4月 | 浜松市中心市街地活性化協議会設立 |
| 5月 | 静岡県地域ブランド戦略会議in浜松開催 |
| 6月 | 浜松地域企業立地基盤検討懇話会発足 |
| 9月 | 「全国商工会議所観光振興大会in浜松」開催 |
| 10月 | 「中国国際中小企業博覧会in広州」ものづくり7社出展 |
| 11月 | 青年部政令都市移行記念事業「集え！起業家の卵たちよ」開催 |
| 12月 | 共済制度35周年・労働保険40周年事業「感謝の集い」開催 |
| 1月 | 創業塾10周年特別企画「創業塾ビジネスミーティング08」を開催 |



共済制度発足35周年を記念して誕生したイメージキャラクター「プラタン」

要望内容

- 商店街組織への加入条例制定方要望
- 新幹線ひかり号増停車要望
- 浜松地域への企業立地推進要望
- 改正建築基準法施行の円滑運用方要望
- 三遠南信自動車早期開通要望



- 4月 政令指定都市「浜松市」誕生
- 静岡銀行「アゴラ浜松」オープン
- 7月 「はままつ産業創造センター」開設
- 第1回はましんビジネスマッチングフェア2007開催
- 8月 第二次浜松市行政改革推進審議会スタート
- 国が中心市街地活性化計画を承認
- 10月 静岡県西部地域しんきん経済研究所設立

日本経済は、サブプライムローン問題の影響が続き、9月11日のリーマンショックを震源とする世界同時不況という厳しい局面を迎えるに至った。日経平均株価も大暴落し、9月12日の終値1万2214円。その後10月28日には一時6000円台まで下落した。当地域では主力産業である輸送用機器産業の減産が中小

製造業の受注激減、資金繰り圧迫等を招くとともに雇用環境も著しく悪化し深刻な状況に置かれた。一方、永年の悲願であり、中心市街地活性化の起爆剤として期待が高かった大丸百貨店の出店計画が現下の経済情勢悪化が決定的な要因となつて白紙撤回されるなど、地域経済にとつては激動の年となつた。

緊急経済対策支援体制を強化！

円高、株価下落等、深刻な経済情勢を受けて、当所では金融・経営に関する「個別相談」や「夜間相談窓口」「緊急特別巡回相談」開設等を柱とする経済対策の強化を開始。また常議員会では「会員向けセーフティネットの創設」が決議され、融資等の金融に対する直接的な助成をはじめとする緊急経営支援事業を実施した。



3月	2月	11月	8月	6月	4月
緊急雇用相談会	緊急経済対策（支援のための窓口）を創設	緊急経済対策（支援のための窓口）を創設	三遠南信バイライゼーション浜松支部会員専用サイト「Do.Pita.NET」を開設	地域資源全国展開事業「遠州綿織物感性価値創造会議」設立	人材育成プログラムを開始
緊急経営なんでも相談会」開催	空港利活用協議会「韓国インセンティブツアー誘致事業」開催	日本商工会議所青年部「第26回全国会長研修会浜松会議」開催	静岡県地域ジョブカードサポートセンター開設	経済産業省「地域力連携拠点事業」開所式	共済制度加入者向けに個人向けプラタナスローン開始
		会員向けセーフティネットを創設			新現役チャレンジ支援事業がスタート
					静岡県西部地域富士山静岡空港利活用促進協議会設立

「100年に一度の不況」と呼ばれるリーマンショックの影響を引きづり、デフレの進行やドバイショックによる円高や株安、新型インフルエンザの猛威などで波乱の年であったが、景気の二番底の懸念がされる中、後半は政府の懸命な経済政策やアジア諸国をはじめとする新興国の急速な需要回復もあって立ち直りの兆しが現れ始めた。しかしながら、地域においては、製造業をはじめほぼ全業種にわたり受注・売上水準の回復には程遠い状況に置かれ、特に地域の雇用環境は深刻な状況となった。

次世代自動車シンポジウム開催

「自動車産業の今後」をテーマにしたシンポジウムを（社）中部産業連盟との共催で開催。第1部の基調講演では「2003年に向けた自動車技術」を第2部では自動車産業の変化への取り組みをテーマにパネルディスカッションを行った。



次世代自動車シンポジウム

産学官連携拠点へ！ 光・電子技術イノベーション創出を展開

浜松・東三河地域の強みである光・電子関連技術を展開し、農工商連携、医工連携、人材育成活動をはじめ、新産業創出にむけての支援を積極的に行っていくこととなった。

6月	経済産業省・文部科学省「産学官連携拠点形成支援事業」認定
7月	次世代自動車シンポジウム開催
9月	環境社会検定試験（eco検定）開始
11月	全国展開事業「浜松うなぎ大好き宣言プロジェクト」採択
12月	女性会「静岡県商工会議所女性会連合会浜松大会」開催
1月	緊急経済対策「ワンストップサービス」開催

要望内容
浜松市「新美術館・楽器博物館」構想要望
マル経資金利子補給制度新設方要望
家庭用高効率湯器購入補助制度創設方要望
住宅用太陽光発電システム補助金増額方要望
学校法人ムンド・デ・アレグリア開校要望
三遠南信自動車早期開通要望
「松菱跡地の早期再生に向けて」要望

Column
浜松うなぎスタジアム 2010

浜松うなぎ大好き宣言プロジェクト実行委員会では、中心市街地において、浜松うなぎスタジアムを開催。無料試食会やうなぎの新しい食べ方を提案したプラス1メニュー試食会をはじめ、創作料理コンテスト、うなぎ博物館など盛りだくさんの内容だった。さらに環浜名湖118店舗のうなぎ専門店情報が掲載されている浜松うなぎ本をプレゼントするクイズラリーも好評を博した。

浜松の歴史

新水泳場「トビオ」オープン

「競技」と「レジャー」の機能を併せ持った浜松市総合水泳場がオープン。国際公認の50mメインプールや飛び込みプールをはじめ、25mのサブプール・子供プール・レジャープールなど6つの屋内プールと2つの屋外プールを整備。また、フィットネスマシニングム、スタジオ、浴室、サウナも併設。トータル的に健康増進できる施設だ。



4月	商店街組織加入条例が制定(要望の成果)
6月	浜松コンベンションビューロー設立20周年式典
10月	浜松市東地区土地区画整理事業完工
1月	「大丸百貨店」の松菱跡地への出店断念表明
2月	浜松市緊急経済対策実施本部設置
	大手企業が在庫調整・休業体制実施
	新水泳場「トビオ」オープン

浜松モザイクカルチャー世界博覧会

9月19日から11月23日の66日間、西区の浜松市フラワーパークで開催（愛称：浜名湖立体花博）。日本で開催されたのは浜松市が初めて。91基の緑化造形アートが展示され、来場者数は約86万にのぼった。



4月	スズキ(株)100周年記念「スズキ歴史館」オープン
5月	B・C・P対応「新型インフルエンザ」県内初感染
6月	「富士山静岡空港」開港
7月	川勝平太知事就任
9月	「浜松モザイクカルチャー世界博覧会2009」開園
	フジドリームエアライン開業
	浜松ブラジル領事館開設(要望の成果)
10月	第3次浜松市行財政改革推進審議会スタート
12月	スズキ(株)GMとの提携解消、VWとの提携発表
1月	学校法人ムンド・デ・アレグリア開校
	静岡県が浜名湖境界線決定[浜松市面積:1,558.04km ²]



3月11日 PM2:46
「東日本大震災 M9.0」発生

リーマンショックによる影響が改善されつつある矢先の平成23年3月11日、未曾有の「東日本大震災」により、社会的・経済的に大きな打撃を受けた。地震・津波の被害はもとより福島第一原子力発電所の事故、風評被害や消費マインドの低下など大きな経済的影響があった。

浜松地域中小企業応援センター開設

浜松商工会議所と浜松信用金庫は「平成22年度中小企業応援センター事業」の実施機関に応募し、全国84の実施機関のひとつに

採択。新事業展開や事業継承を支援するための専門家の派遣、相談窓口の設置、セミナーやビジネスマッチング事業を実施した。

はままつ次世代環境車社会実験協議会
5月17日、次世代環境車の普及と産業化の促進に向けた社会実験を行う「はままつ次世代環境車社会実験協議会」が、浜松地域の産業界、大学、行政の14の機関が参加しスタートした。まさに「オール浜松」で、次世代環境車の社会実験などに取り組んだ。



- 4月 浜松まちなかにぎわい協議会設立
- 浜松地域新産業創出会議を発足
- 三遠南信クラスター推進会議を発足
- 浜松地域中小企業応援センター開所式
- 浜松海外ビジネス協議会発会
- 7月 「遠州機械金属発展史」編纂委員会スタート
- 10月 浜松航空機産業プロジェクト発会
- 光・電子技術イノベーション創出拠点採択
- 12月 輸送機器産業戦略研究会発足
- 産学官連携拠点事業「光・電子イノベーション創出事業マッチング会」開催
- 1月 関東経済産業局「広域関東圏国内投資促進本部」スタート
- 2月 産学官連携拠点形成支援事業ネットワーク協議会が新組織移行
- 3月 浜名湖火花大会中止、同運営協議会解散
- 東日本大震災救援募金活動スタート
- 浜松販売士協会解散



タイの洪水

「東日本大震災」により、我が国全体が甚大な打撃を被る中、復興・復旧に向けた日本人の手が差し伸べられ「心の絆」が強いものとなった。またさらに、台風12号・15号の上陸による自然災害を被り、特に15号は20年ぶりに浜松に上陸、

加えて海外ではタイの洪水により進出企業は大きな被害を被った。10月31日には過去最高水準の1ドル＝75円32銭という超円高となり、急速に地域企業における海外展開の志向が強まり、地域の経済基盤が危惧される状況に陥った。



【ホームページコンテスト】
ホームページの質的向上を促進する場づくりと、地域のWebを活用した先進事例の発掘を目的に2005年～2012年度まで毎年開催した。



【やらまいかブランド発表会開催】
地域ブランド創出委員会では、やらまいかブランドのお披露目を兼ねた発表会をオークラアクティビティホテル浜松で開催した。マスコミ関係者やバイヤー等214名が来場。試食、試飲、見学等を通して49の認定品を紹介した。

- 4月 ㈱浜松ファッションコミュニケーションセンター所有不動産を取得
- はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業記念式典・開所
- 大震災復興支援 大船渡商工会議所へ職員派遣
- 大震災復興支援 浜松まちなか大市開催
- 7月 「商工会議所節電行動計画」実施（9月30日まで）
- 5月 青年部 東北支援「東日本応援団」派遣
- 東日本大震災支援 日商に1200万円義援金贈呈
- 8月 静岡県西部地域経済懇話会設立
- 地域イノベーション戦略推進地域「国際競争力強化地域」に選定
- 女性会「第43回全国商工会議所女性会連合会全国大会浜松大会」開催
- 商工会議所「活性化特別委員会」設置
- 3月 浜松納税意識啓発市民会議事務局を浜松市へ移管
- 静岡県西部地域富士山静岡空港活用促進協議会が解散

要 望 内 容

地方税に関する要望
 地元ソフトベンチャー参入機会拡大方要望
 JR東海「歴史博物館」建設方要望
 浜名湖花博10周年事業開催方要望
 三遠南信自動車早期開通要望
 税制改正要望
 車体課税抜本的見直し方要望
 浜松・三ヶ日道路早期建設方要望
 浜松市宛「行政要望」
 社会保障・税一体改革意見陳情
 マル経利子補給制度延長方要望
 浜松城公園整備に係る地元発注方要望
 「浜松市新美術館」建設方提言

- 4月 浜名湖ガーデンパーク舟運事業就航
- 6月 浜松市「みんなで節電！市民会議」発足
- 7月 浜松市制100周年記念式典開催
- スズキ二輪事業「都田地区に工場集約」発表
- 8月 天竜川船下りで転覆・死亡事故発生
- 9月 台風15号が20年ぶりに浜松上陸
- スズキ(株) VWと資本業務提携の解消発表
- 10月 「ギャラリーモール:愛称ソラモ」オープン
- 11月 世界創造都市フォーラム2011開催
- 「遠鉄百貨店新館」オープン
- 12月 再開発ビル「ザザシティ中央館」商業区画を日管が取得
- 1月 全国街道交流会議全国大会浜松大会を開催
- 旧松菱ビル解体工事が本格化
- 3月 浜松ジオラマファクトリー開館
- 三遠南信自動車: 風来峡ICいなさ北IC開通式



2012年3月20日、浜松市制100周年を記念し、浜松市札幌市音楽文化年交流事業としてアクティビティ浜松大ホールにおいて札幌交響楽団が公演を行った。

浜松市制100周年
明治44年7月1日に誕生した浜松市は、記念すべき市制100周年を迎えた。「100夢プロジェクト」は、浜松の魅力や誇りを分かち合えるよう、市民や地域、民間企業が100周年記念事業を企画し、実施するプロジェクト。音楽やスポーツ、演劇・文化、自然体験、地域づくりなど多彩な全150事業が、平成23年4月から平成24年3月までの1年間にわたって、市内各地で実施された。

浜松の歴史

路面凍結と積雪により交通マヒ
1月16日夜半に降った大雪は、普段雪が積もらない浜松市民の足を困らせた。17日の昼近くまで道路は交通麻痺により至る所で渋滞となった。

浜松まつり中止が決定

3月18日、「浜松まつり」の開催を中止すると発表。400年以上の歴史を誇る浜松まつりは戦後から2010年まで毎年続けられたが、3月11日に発生した東日本大震災により戦後初めて中止が決定された。



静岡大学浜松キャンパスで次世代ものづくり人材育成センター落成式を挙げる



国際ユニヴァーサルデザイン会議2010開催

- 6月 「次世代ものづくり人材育成センター」設立
- 9月 経済同友会「アートリンク構想研究会」発足
- 浜信経営塾20周年式典
- 10月 静岡文化芸術大学開学10周年式典
- 国際ユニヴァーサルデザイン会議2010開催
- 12月 おかえり「はやぶさ」帰還カプセル特別展示
- 1月 「ピオラ田町」商業施設を丸八不動産落札
- 浜松地方に雪が降り交通マヒ
- 2月 静岡県「富士山の日」条例制定
- 3月 まつり本部が浜松まつり中止発表
- 統一地方選挙で鈴木康友市長が無投票当選
- NPO法人浜松ソフト産業協会設立

要 望 内 容

三遠南信自動車早期開通要望
 「新浜名湖大橋架橋」建設方要望
 「県営文化施設・スポーツ施設」設置方要望



この賞は日本商工会議所が観光立国や地域活性化に向けた取り組みを促進することを目的として、地域の個性が光り、他地域の模範となる活動を行っている商工会議所を顕彰するもの。浜松商工会議所は、浜松地域ブランド「やらまいか浜松」に関連する事業や浜松うなぎ大好き宣言プロジェクトと称した、うなぎを核としたにぎわいづくりが、観光とまちづくりが一体となり、地域活性化を促す取り組みが評価された。

Column
地域活性化への取り組みが評価
 ●きらり輝き観光振興大賞
 ●観光立「地域」特別賞を受賞

前年末の政権交代を期にアベノミクスの「3本の矢」による景気回復基調となっているものの、TTPへの対応、産業空洞化など多くの問題・懸念が山積している。これに加え、平成26年度からの消費税増税、また少子化・高齢化、人口減少

プロモーション実践塾 開講

タブレット端末やスマホの普及、ソーシャルメディアの活用等、消費者行動も変化している中、企業の販促や営業活動も従来どおりでは効果が期待できなくなってきた。

静岡県地域ブランドフェスティバル 開催

地域ブランド創出特別委員会では、11月3日、やらまいかブランドをはじめとした県内の地域ブランド認定品や自慢の逸品を集めた「第一回静岡県地域ブランドフェスティバル」をソラモにおいて開催。

会場には静岡県内の10商工会議所との連携により、三島コロッケや静岡おでんなど県内各地から52店が出店。来場者も1万5000名を超える盛況を博した。

- 4月 浜松地域ブランド「やらまいか」のHPをリニューアル
- 7月 インドグジャラード州投資セミナーを開催
- 7月 女性が浜松全国大会で静岡県コンベンションおもてなし大賞最優秀賞を受賞
- 11月 第1回販路開拓支援塾を開講
- 11月 第1回プロモーション実践塾を開講
- 12月 第1回静岡県地域ブランドフェスティバル
- 12月 青年部が第2回東日本応援活動にて大船渡市訪問
- 2月 第1回地域会議開催
- 2月 オンライン商工名鑑の機能を拡張
- 3月 浜松商工会議所津波防潮堤寄附活動を開始
- 3月 浜松商工会議所共済制度発足40周年・労働保険事務組合発足45周年記念「会員の集い」を開催



インドグジャラード州投資セミナーを開催



会員の集い

要望内容

浜松内陸コンテナ基地のターミナル・ステイタス指定期間延長の要請
 安心・安全なまちづくり提言書に基づく要望
 三遠南信自動車道早期開通期成同盟会要望
 東名高速道路スマートインターチェンジの整備要望
 小規模事業者経営改善資金(マル経資金)における利子補助金制度延長並びに市融資の拡充に関する要望

Column
津波防潮堤寄附活動を開始!

予想される巨大地震による津波災害に備えるため、浜松市では防潮堤や津波避難施設などの整備を進めるための「津波対策事業基金」を創設した。こうした動きをうけ、浜松商工会議所では、産業界としても率先して津波対策事業を推進させるべく、会員企業に広く呼びかけ平成25年3月に寄附活動を開始。今後5年程かけて継続的な浄財の寄進をお願いしていく方針。

前年からのアベノミクス効果もあり、日経平均が1万6000円を超えるなど、大手企業の景気回復基調は数字として高水準を得ている。しかし、原油

大盆踊り大会 開催

高に伴う原材料の高騰など中小企業の経営環境は依然厳しい。また、次年度の消費税増税や国の債務が1000兆円を突破するなど懸念材料も多い年であった。



ふるさとまるごとフェスタ

浜松の地域資源である「音楽(吹奏楽)」×「伝統文化(郷土芸能)」×「産業振興(やらまいかブランド&浜松物産品)」が大集合して、「浜松が大好きな人」がふるさとを自慢するふるさとまるごとフェスタが開催された。また女性会による「出世門松コンテスト」の投票も行われ、イベントの最後には表彰式も開催された。



- 4月 会報誌「NEWing」が月刊誌としてリニューアル
- 4月 部会が17部会から12部会に編成、健康・医療・福祉部会誕生
- 6月 静岡大学との連携事業「はままつKOMACHI」を開始
- 6月 浜松市新美術館建設基金(仮称)創設についての提言書を浜松市へ提出
- 7月 創立120周年記念式典・講演会を開催
- 7月 創立120周年記念桜の樹木募集開始
- 8月 大盆踊り大会を開催
- 9月 第1回徳川家康公検定を実施
- 10月 ふるさとまるごとフェスタ開催
- 11月 浜松商工会議所創立120周年記念シンポジウム開催

要望内容

「安心・安全・憩い」を提供する防潮堤、県営球場の整備について提言
 ジェトロ浜松貿易情報センターの設置要望
 浜松市新美術館建設基金創設について提言
 26年度税制改正要望
 浜松駅周辺改良の早期実現について提言
 浜松市防潮堤整備促進を支える市民組織設置要望



Column
120周年記念講演会・式典

7月8日、マイカホールにて、記念式典開催に伴う記念講演会を開催。浜松地域で大切にされてきた過去から現代へつながってきたもの、そしてこれからつないでいくものを講師と来場者が一緒になって考える時間となった。第1部記念講演の講師は「武士の家計簿」で新潮ドキュメント賞を受賞した静岡文化芸術大学准教授磯田道史氏。「家康・秀吉と現代浜松をつなぐ」と題し、出世の街浜松の興味深い史実が語られた。また第2部として式典を開催し、120周年記念ロゴ制作者や創業百年企業特別顕彰などの表彰式を行った。

- 4月 家庭ごみの分別や収集方法を全市統一
- 4月 江之島アーチェリー場オープン
- 4月 浜北平口サッカー場オープン
- 4月 「はままつフラワーパーク」と「はままつフルーツパーク時之栖」がリニューアルオープン
- 4月 浜松沿岸域の防潮堤等整備事業着工式
- 5月 浜松まつり3日間で230万6600人の人出
- 7月 「浜松・浜名湖太陽光発電所」が完成
- 7月 台北市と観光交流都市協定を締結
- 9月 第1回「家康公検定」開催
- 9月 「浜松・いなさ太陽光発電所」が完成
- 11月 「男女共同参画・文化芸術活動推進センター(あいホール)」リニューアルオープン
- 11月 「鴨江アートセンター」リニューアルオープン



浜松まつり3日間で230万6600人の人出

恒例の風揚げ合戦、御殿屋台引き回しに加え、東京デイズニールゾート®の開園30周年記念スペシャルパレードが登場し、3日間で230万6600人の人出を記録した。

「浜松・浜名湖太陽光発電所」完成

浜松市が西区呉松町の静ヶ谷最終処分場跡地に誘致したメガソーラー「浜松・浜名湖太陽光発電所」が完成した。自治体誘致のメガソーラーが稼働するのは県内では初めてのこと。発電出力は3000kw。

浜松の歴史

家康くん、はままつ福市長に就任

市制百周年マスコットキャラクター「出世大名家康くん」がはままつ福市長に就任。浜松の魅力発信や「出世の街浜松」の推進に取り組んでいる。



- 4月 県内初の公立小中一貫校「引佐北部中学校」開校
- 4月 「出世大名家康くん」はままつ福市長に就任
- 4月 中国浙江省・杭州市と友好都市協定を締結
- 4月 新東名高速道路(御殿場JCT~三ヶ日JCT)開通
- 5月 浜松まつり2年ぶりに開催
- 7月 健康都市連合に加盟
- 9月 沿岸域の防潮堤整備の着手式
- 9月 ロンドンパラリンピックで活躍の4選手に「浜松市スポーツ特別賞」を授与
- 10月 浜松市の次世代エネルギーパーク計画を経済産業省が認定
- 11月 遠州鉄道沿線の連続立体交差事業の高架化(助信駅~上島駅)が完了
- 3月 舞阪幼稚園西側に市内初の津波避難タワーが完成

新東名は、神奈川県老名市から静岡県を経由し愛知県豊田市へ至る高速道路。4月14日には御殿場JCT~三ヶ日JCTが開通した。

ロンドン2012パラリンピック競技大会でメダルを獲得するなど目覚ましい活躍を遂げた本市にゆかりのある4人の選手に浜松市スポーツ特別賞を授与した。

つなぐ地域の底力

生粋の浜松魂が
商機を生む

坂本 光司氏

4月号
法政大学大学院政策創造研究科教授
同静岡サテライトキャンパス長

我が町みんな
で育てる「理科力」

松本 好司氏

5月号
浜松ITキッズプロジェクト推進会議議長・
浜松ソフト産業協会副理事長
(天方産業株式会社代表取締役)

宇宙を駆ける
少数精鋭の技術

原田 浩利氏

6月号
原田精機株式会社代表取締役
浜松新産業創出会議メンバー
宇宙航空利活用研究会幹事

この10年と未来を拓く
10年ビジョン

宮川 勇氏

7月号
第21期副会頭
浜松商工会議所創立120周年記念
特別委員長

『家康楽市』で浜松
パワーフードと発信

秋元 健一氏

8月号
家康楽市実行委員長
株式会社ドルフィンキッズプロダクション
代表取締役

120周年 記念シリーズ特集

変革をもたらす
ユニバーサル農園

鈴木 厚志氏

12月号
京丸園株式会社代表取締役

「ITが地元を救う」を
信念に

野澤 浩樹氏

11月号
株式会社シーポイント代表取締役社長

野球ユニフォームで
独自の道を邁進

宮田 雅昭氏

10月号
レワード株式会社代表取締役社長

新たな挑戦が浜松
の産業の光となる

晝馬 明氏

1月号
浜松ホトニクス株式会社代表取締役社長

大いなる底力を秘めた浜松経済における活性化のヒントや起爆剤、また勇気や元気をもたらす話題をお届けする「つなぐ地域の底力」は浜松商工会議所の120周年シリーズ特集として企画連載しました。Newing4月号から1月号にかけて連載した記事の要約をまとめて紹介します。

※完全原稿を読みたい方は浜松商工会議所HP内の創立120周年事業特設HPをご覧ください。

生粋の浜松魂が商機を生む

坂本光司氏

浜松はこれまで、日本を牽引してきたものづくりの大手企業およびビッグビジネスを支える「世界的にも高度な生産技術を知り尽くした企業の集積地」でした。それだけの強みがありながら、リーマンショック以降うまく機能していないのは、従来のピラミッド型産業組織に収まっているからです。そのため今後の浜松の在り方として第1に、不自由な縦型産業組織とは一線を画す、「メカニズムの中核を占める機構や部品の生産拠点」であって欲しいと考えます。



また浜松はいくつもの総合病院、医科大学、学術研究機関が存在することも特徴です。医療、福祉、介護の分野においても、高度な技術開発を活かした産業機械や設備、製品の登場が待たれているはず

我が町みんなで育てる「理科力」

松本好司氏



「浜松ITキッズプロジェクト」は、技術者の輩出が目的ではありません。作家でも医師でも、子ども達がいかに夢や多様性を理解し、興味を深めたり広げたりするためにITを直感的に理解して活用する「デジタルネイティブ」になれるように支援したいと考えています。

そのため体験型・実践型の講座としてオリジナルプログラムが開設され、指導には各企業が得意分野を担当します。初年度は市内全小学校の3年生に告知し、80名の応募の中から24名が受講。そして一学年全員が修了証を手に入れました。

開催して驚いたのは、子ども達の集中力です。月2回、70分の講座ですが、「時間が足りない、もっとやりたい」という声が毎回聞かれました。質問もたくさん出ますし、意欲がどんどん高まっていくのが感じられました。また学校は違って

取り組みは始まったばかりですが、大きな手応えを確かに感じています。3年後にはロボットコンテスト(小学生部門)世界大会出場も視野に入れ、世界と戦えるIT脳を持った人材の育成が浜松で着々と進行しています。

宇宙を駆ける少数精鋭の技術

原田浩利氏

弊社は自動車産業界で機械の設計製作と試作分野、そしてモータースポーツ分野での仕事を中心に事業展開してきました。その傍らで車輪技術を活かし、「惑星探査用車輪」を自社開発しました。これはインターネットを利用して遠隔操作できる車輪ロボットと解釈してください。また大型人工衛星部品を製作し、地道に技術習得と研究開発を積み重ね、現在は人工衛星としての構造体と観測用テレスコープシステムが完成の域に達するところまでやってきました。これはわずか50kgの自社製人工衛星「はままつSAT」として、観測データを地上に送る際の地上受信機器も併せて開発しています。

私が考える日本の目標は「技術立国」です。資源と内需の小さい日本は、日本特有の製



この10年と未来を拓く10年ビジョン

宮川勇氏

ものづくりを中核産業とした浜松にとって非常に厳しい10年でした。平成20年のリーマンショック、さらに平成23年の東日本大震災では失われた人の命の尊さに胸がふるえる想いでした。しかし全世界から国を超えた支援を受け、つないだ絆の強さが明日への力になったように思います。

また平成の大合併では浜松市が「日本で2番目に広い市域を持つ都市」となったことも印象深い出来事です。そしてこれからの10年で考えるのは一番に「安全・安心の地区」です。まず防潮堤を築くこと。と同時に、高度な医療技術を広げ、多く利用できることや、全国でも有数の農業生産量を誇る地区として自給自足という観点も大切です。こうした安心・安全を基盤とした上で、「浜松らしい産業と文化の香りに心なごむ街」



家康楽市で浜松パワーフードを発信

秋元健一氏

浜松は長年、工業の街として潤ってまいりましたが、そのおかげで飲食業も成り立っていました。けれど接待需要の減少や、お客様の足が郊外に向くと、街中の飲食店は苦戦続きになりました。そこで街中にぎわいを取り戻すための新しいマーケット開拓への足掛かりとして「家康楽市」を考えました。

徳川家康公は29歳から45歳の若かりし日の17年間に浜松で過ごしていて、いわば働き盛り。様々な苦難で最も苦しかった時代に、浜松の物を食べて力を蓄えた後、大出世を成し遂げました。また豊臣秀吉公も浜松が初就職の場として3年間を過ごし、後に織田信長公に仕えて大出世しました。浜松の食が2人の天下人の強さを養ったと言ってもいいでしょう。だから浜松産の食材は「浜松パワーフード」なんです。

浜松の味を楽しむ「家康楽市」は、同時に食を提供する者同士の出会いの場にもなっています。生産者と料理人が協力して浜松産ブランドを確立できれば、浜松の観光地化にも大きな原動力になると思います。

観光地化には「食（パワーフード）」「歴史（徳川家康公）」「パワースポット（霊地・観光地）」などの魅力が不可欠です。深く味わいのあるストーリーを持つ浜松に世界から人が集まることを目標とし、みんなで力を合わせて新しいマーケットの開発を実現していきたいと思っています。



「ITが地元を救う」を信念に

野澤浩樹氏

地域ポータルサイト「はまぞう」のスタートは2005年10月でしたが、その7ヶ月前に開設した沖繩の地域ポータルサイト「ていーだ」が初の試みでした。浜松でのIT活用がなかなか賛同を得られない状況にあって、今後の戦略としても有効だと判断し、移住者が多く競合サイトがない沖繩に拠点を移してみようと思いました。

アンテナが高い地元の皆様との交流や応援にも恵まれて、沖繩ではたった3ヶ月で400万ページビューを記録し、半年もたたないうちに1000万ページビューを超えました。「求め



られていた」という実感を得られたことで、浜松を拠点に「はまぞう」をスタートする決意も固まりました。ネットはお互いの世界的な助け合いです。私は毎日情報に助けられています。だから私も自分が出せる一次情報を出しています。地域のみんなが何か情報を出していくことで、助け合いになっていけたらいいと思っています。

だから浜松じゅうのモノ、コト、人がつながっていく、町と人が元気になっていくために、自分達に何が出来るかをずっと考え続けています。昔のご近所づきあいとは違って、困った人がいることを知らせることができて、気づいた人が手を差し伸べる、そんなつながり方の仕組みをITで実現させたいです。時間がかかることではありますが、あきらめず継続して、未来の人達にビジョンと技術を手渡していこうと思っています。

変革をもたらすユニバーサル農園

鈴木厚志氏

この地で農業を続けてきて、私で13代目になります。ある日、税理士さんから「法人化によって、作りたい会社・農園を永続的に目指すことができるんですよ」と聞いて、「僕が死んでも、描いた事業の夢や理想はずっと生き続けることができるんだ！」とロマンを感じました。私には「農業にはもっと多面的な機能や価値があるはずだ。農業を変えていきたい」という想いがあり、私の夢を永く継承してもらえる仕組み作りをするため法人化に踏み切りました。

弊社には現在、従業員67名のうち障がい者雇用18名、障がい者研修生4名が在籍しています。1年に1人雇用してきて19年です。

働く一人一人に役割があり、正直に働き、品質の良い農作物を作る。それをお客様から評価していただき、結果として利益ややりがいを生み出せる。これは働く個人の幸せであり、真の社



会参加となります。関わるすべての人達の「喜びと安心と誇り」となるようにと、私達が目指すユニバーサル農園は、福祉のための農園ではなく農業経営における幸せの追求です。

浜松は、農業、工業、商業、先進的な光産業など、それぞれに高いレベルが融合した素晴らしいエリアです。80万人の消費者と多くの労働人口は農業にとって大きなメリットでもあります。この都市型のメリットを活かしながら発展していくための「これからの農業」を次世代につないでいきたいと思っています。

野球ユニフォームで独自の道を邁進

宮田雅昭氏

野球ユニフォームに特化した企画、製造、販売を手掛けるようになったのは、従来スポーツ店で売られていたスポーツ衣料を「繊維のメーカーの発想で売っていいこう」と、全国の繊維の問屋にアプローチしてルートを築いていったのが始まりです。

自社工場で型紙設計、裁断、縫製、マーク付け、帽子の加工まで行う一貫生産体制で、しかも国内生産にこだわっています。それは、いい素材、いい技術が日本にはあるからです。外（海外）で作って、内（国内）で売るという仕組みでは、商業も工業もお金が回らないです。基本はやはり地産地消でありたいと思っています。

弊社では、ご注文いただいた方の身長やウエスト等の数値をCADに入力すれば、一瞬にして基本型紙を製作することができ、品質や耐久

性においても確固たる自信があります。またホームページでは、好きなデザインをシミュレーションしていただけます。人材育成の点でも、国内で良いものを作るといって考えに重点を置いています。

浜松は元々底力のある街ですから、「ものを作る技術力」「やってみようという精神力」が根付いています。こうした底力を繋いでいってほしいと思います。

弊社としても、スポーツを軸とした夢のあるものを送り出していきたいようあらゆる融合の可能性を探っていきたくいですね。そして、かつてのように「浜松産が一番だね！」と言われるようになればと思います。



新たな挑戦が浜松の産業の光となる

書馬明氏

戦後の混沌とした中、自宅の蔵を改造して始めたのが会社としての第一歩でした。現在、弊社の技術革新を支えているのは、第1に「人類未知未踏の追求」で新たな知識を見つめるために、売上の10%を研究開発に費やしていること。第2に「部門独立採算制」で、ベンチャーの精神を持ちながらも徹底して収支を合わせる考えを貫いていることです。

弊社では売上の4割が医療分野ですが、光が携わる部分は製品やシステムの性能そのものを決める鍵となる要素です。そうした光を必要とした市場の広がりには計り知れませんが、大いなる可能性の中で、どのように光技術を応用できるか、そこに浜松が新産業のメッカとなるヒントやきつかけがあるのではと思っています。

浜松は沢山のベンチャー企業が育ってきた土地であり、「や



らまいか精神」が生まれた地域です。しかし「では果たして、その精神が今あるのだろうか。失ってしまったくないか。いや、あって欲しい」そんな想いがあります。

「浜松」を社名に持つ弊社として、当地発展への寄与は使命でもあります。浜松らしい起業家精神をつないでゆくためには、若い世代の起業力を支えるしくみ作りとして、定年者の豊かな経験・知識・コネクションを活かしたアドバイスが大切な気づきをもたらしてくれると思います。そうしたしくみ作りは、浜松の持続的な成長と活性化につながってゆくのではと考えています。

編集後記



創立120周年記念誌編纂部会 部会長 神谷 竹彦

浜松商工会議所創立120周年の節目を迎えるにあたり、創立120周年記念誌を刊行することができました。刊行に多大なご協力いただいた関係者および委員の皆様には深く感謝申し上げます。

当所の周年を節目とした記念誌は、その時々の経済環境を交えながら浜松商工会議所や浜松地域の功績や動きなどが掲載されてきました。

この10年間は、リーマンショックを発端とした世界的金融危機や東日本大震災など未曾有の出来事の連続で、まさに激動の時代でした。また、2度の政権交代や当地域においても浜松市町村合併・政令市への移行など変化を求め機運が顕著に見えた時代だったとも言えるでしょう。

今回の周年事業のコンセプトは「つなぐ地域の底力」です。これは、不透明な時代だからこそ、会員企業をはじめとした地域の皆様が底力を発揮し、浜松商工会議所が力と力を繋いで地域一体となって浜松を盛り上げたいという思いが込められたものです。記念誌の編纂においても同コンセプトを基本とし、周年記念誌としては初めて当所全会員の皆様にお届けします。また、内容につきまして関係者の英知を結集し、限られた予算ながらも記念シンポジウムの内容や、会報誌に連載した創立120周年記念シリーズのダイジェスト版を掲載するなど皆様と記念事業を共有していただけるよう工夫を凝らしました。

不透明な時代ではありますが、本記念誌を多くの方にお読みいただき、浜松が築き上げてきた偉大な礎を再認識いただくとともに、会員の皆様の日々の経営の糧にさせていただければ幸いです。

最後になりますが、今回創立120周年記念誌編纂部長の大役をお引き受けいただいたことを大変光栄に思います。編纂に当たりましては正確を期するよう努めました。が、不十分な点につきましては何卒ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

浜松商工会議所 創立120周年記念誌編纂部会

委員長	宮川 勇	スズキ(株) 顧問(～10月)	委員	鈴木 秀利	浜松ヤナセ(株) 代表取締役社長
〃	岡部 比呂男	ヤマハ(株) 取締役常務執行役員(11月～)	〃	鈴木 雅太郎	(株)マルマ 代表取締役社長
部会長	神谷 竹彦	(株)サカエ 代表取締役会長	〃	高橋 弘之	遠鉄システムサービス(株) 代表取締役社長
副部会長	中村 嘉宏	(株)中村組 取締役社長	〃	中村 保雄	浜松酒造(株) 代表取締役
委員	小野 晃司	サゴーエンタプライズ(株) 代表取締役社長	〃	前嶋 文明	ソフトブレ工業(株) 代表取締役
〃	坂本 佳観	(株)静岡銀行 常務執行役員西部カンパニー長(～10月)	〃	松島 勇史	三立製菓(株) 代表取締役社長
〃	杉本 浩利	(株)静岡銀行 常務執行役員西部カンパニー長(11月～)	〃	宮下 康親	西日本電話(株)浜松支店 支店長
〃	沢根 孝佳	沢根スプリング(株) 代表取締役			

浜松商工会議所 創立120周年記念誌

発行日 / 2014年2月 発行 / 浜松商工会議所 〒432-8501 静岡県浜松市中区東伊場2丁目7-1
 協力・参考文献 (敬称略) / 浜松市・国土交通省・(公財)浜松交響楽団・東海旅客鉄道(株)浜松工場
 デザイン・編集協力 / (有)クリケット

会 頭 2001年～2013年



18代会頭 中山 正邦
(平成13年11月～平成19年10月)

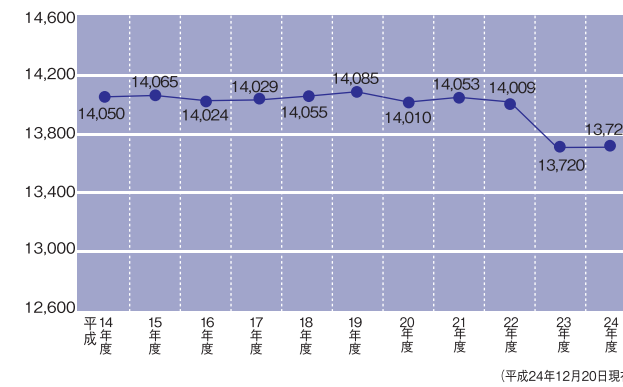


19代会頭 御室 健一郎
(平成19年11月～平成25年10月)

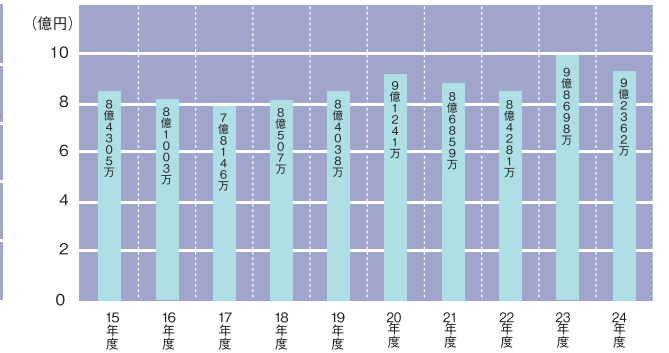


20代会頭 大須賀 正孝
(平成25年11月～)

会員数の推移



一般会計収入の推移



浜松の商業販売額と製造出荷額の推移

